

# 松山スマートシティプロジェクト（松山スマートシティ推進コンソーシアム）

都市空間の充実化と次世代都市サービスの導入により、**笑顔あふれる歩いて暮らせるまち**の実現を目指す。そのため、都市データを活用したアーバンデザインの方法論『**データ駆動型都市プランニング**』を確立し、地方都市で既成市街地を更新する先行モデルとして取組を行う。

## ■ 位置図



## ■ 本事業全体の概要

フィジカル空間とサイバー空間が高度に融合された、経済発展と社会課題解決を両立する**人間中心の社会(Society5.0)**の実現に向けて、アーバンデザインの方法論「データ駆動型都市プランニング」の実装を行う。

## フィジカル空間



都市空間及びその利用状況に関するデータを取得する

## サイバー空間



## ■ 対象区域の概要

名称 | 松山市

面積 | 429.35km<sup>2</sup>

人口 | 511,569人

\*平成27年国勢調査結果(250mメッシュ)を用いて面積按分により算出

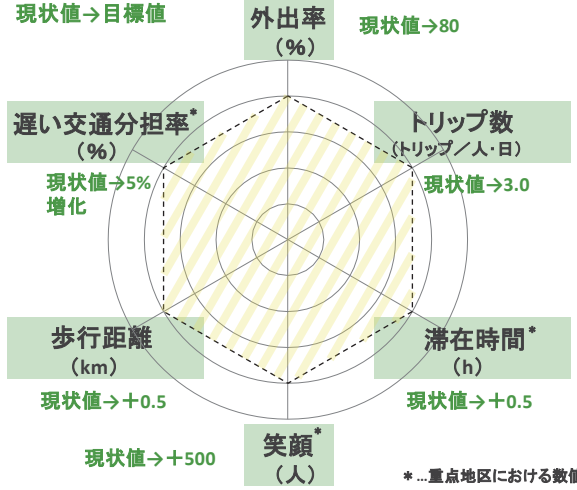
## ■ 対象区域のビジョン

**笑顔あふれる歩いて暮らせるまち**

豊かな都市空間の形成や最適化された次世代都市サービスを提供することにより、歩いて暮らせるまちづくりを推進し、市民の生きがいや健康の増進、低炭素・循環型のまち、観光地としての魅力向上、交流促進による経済活性化、災害に強いまちを実現する。

# 松山スマートシティプロジェクト (松山スマートシティ推進コンソーシアム)

## ■ スマートシティの目標(KPI)



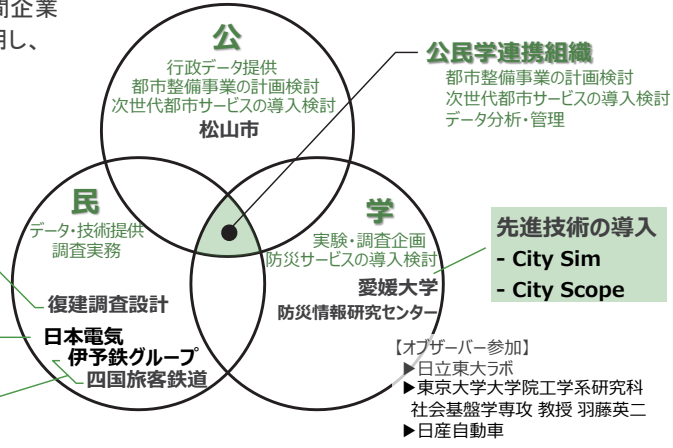
歩いて暮らせるまちづくりを進めていく上で、**ひとの活動**や**まちの魅力**、**まちを歩く楽しさ**などを評価する明確で効果的な指標が必要になる。本取組では先進技術により効率的に取得できるKPIの提案を目指し、左図の6つについて検討する。また、この6つのKPIに加え、**歩くことによる経済・健康・環境等への波及効果**や**都市データ収集/利活用に関するKPI**も設定する。

## ■ 運営体制 ※法人格名省略

公民学が連携し、民間企業の技術・情報等を活用し、取組を推進する。

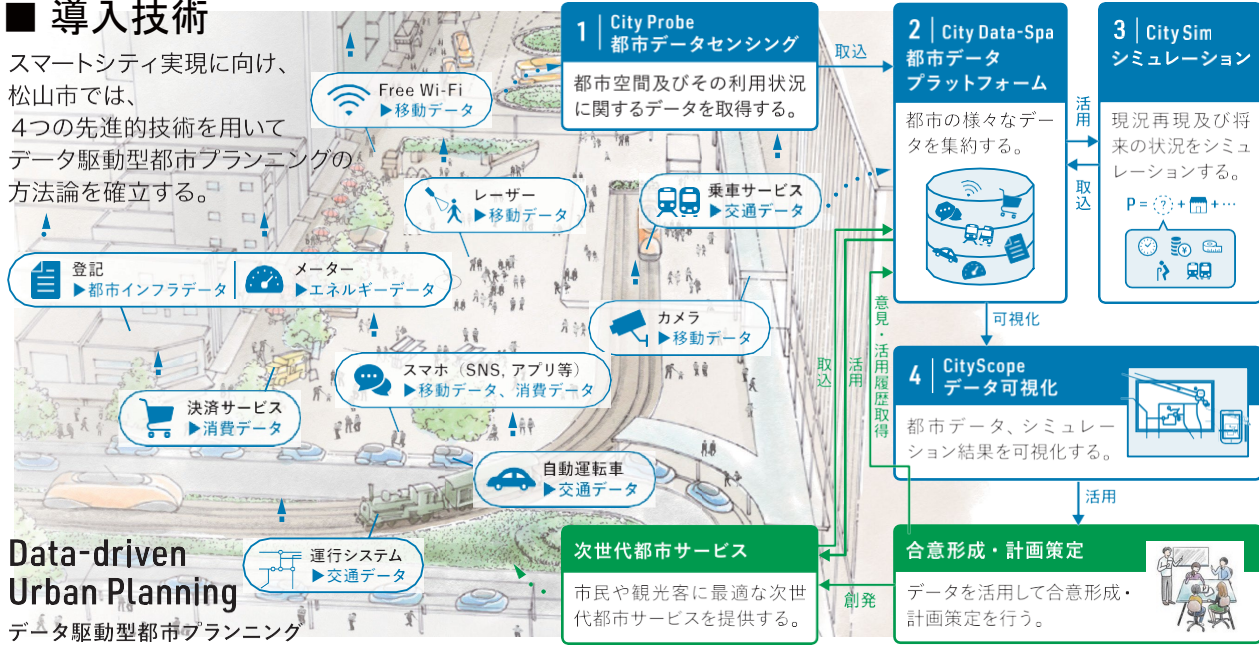
民の主な担当

- 次世代都市サービスの導入検討 - City Ride
- 先進技術の導入 - City Probe - City Data-Spa
- データ提供



## ■ 導入技術

スマートシティ実現に向け、松山市では、4つの先進的技術を用いてデータ駆動型都市プランニングの方法論を確立する。



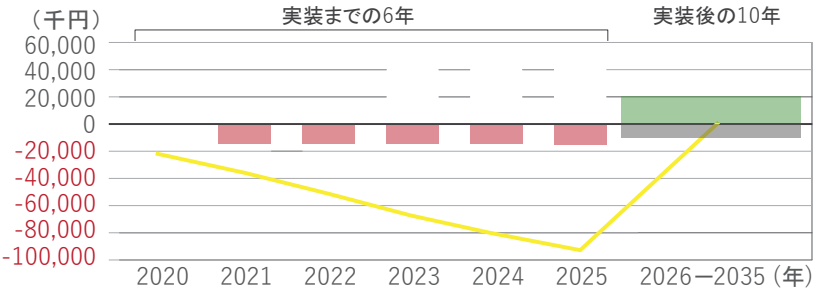
- 1 | City Probe (都市データセンシング)**  
都市空間、利用状況を情報化する機器・システム  
▶カメラ、レーザーセンサー、GPS、Wi-Fiなどによるデータの常時取得をめざす
  - 2 | City Data-Spa (都市データプラットフォーム)**  
データ集約のための情報基盤システム  
▶地域密着型運用による都市データの地産地消から始め、他地域との連携をめざす
  - 3 | City Sim (シミュレーション)**  
データ解析、シミュレーションを行うためのツール  
▶公民学の知見を活用。将来的にAI利用も視野に入れ、政策への活用をめざす
  - 4 | CityScope (データ可視化ツール)**  
データを可視化し合意形成を促進するためのツール  
▶直感的なユーザインタフェースの実現により、市民の活用をめざす
- City Ride (次世代モビリティ)**  
上記と連携された新しいモビリティサービス
- City Safe (防災サービス)**  
上記との連携による防災サービスの高度化

**Data-driven Urban Planning**  
データ駆動型都市プランニング

# 松山スマートシティプロジェクト (松山スマートシティ推進コンソーシアム)

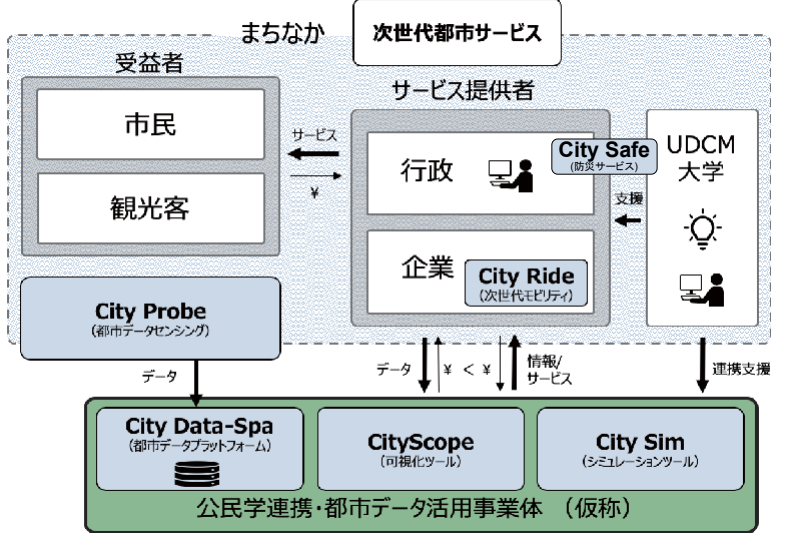
## ■ ビジネスモデル

都市マネジメント組織(公民学連携・都市データ活用事業体(仮称))を設立する。同組織は、行政や企業に対し、収益事業として取得したデータに価値を付加した情報/サービスを提供し利益を得る。この収益事業により得られる利益によって、システム構築及びその維持管理等にかかる投資回収を行う。投資回収時期は、システム実装後10年目を見込んでいる。



■ 収入  
■ 初期投資  
■ 維持管理  
— 損益

※収入の一部には、行政のサービス利用料(調査業務の代替等)を計上。調査業務等にかかる行政コストは、当サービス利用により縮減されているものと想定している。



## ■ スケジュール

### Phase 1: 2020-2022

都市データプラットフォームの部分運用、現シミュレーションモデルの拡張を実施し、収集データの利用により松山都市圏の公共交通利用状況を再現する。

### Phase 2: 2023-2024

2023年からデータ駆動型都市プランニングを部分運用し、スクール活動を市民参加型に拡大することで、活用範囲を拡大していく。  
また、運行実験により得られたデータが都市データプラットフォームに提供され、シミュレーションにより可視化されることで、交通事業者などが活用可能な仕組みを作る。

### Phase 3: 2025

過年度の取り組みを実装につなげ、再現されたシミュレーションに基づき、公共交通サービスの再編など最適化を行う。  
また、あらゆるステークホルダーがデータを自由に活用できるようなオープンAPIを公開する。

	2020	2021	2022	2023-2024	2025
<b>運営体制</b>	都市データ活用事業体の検討	都市データ活用事業体の調整・試行			関係者追加
<b>データ駆動型都市プランニング</b>	計画検討	WS 評価	計画検討	実証計画	実証計画
<b>先進的技術の実装</b>	1   City Probe	検討・調整	検討・調整	OD/PP調査等	PT調査
	2   City Data-Spa	収集データ調整 プロトタイプ構築・改修	データ検討・収集 機能追加検討	基礎データ収集 都市DP構築 部分運用	データ蓄積
	3   City Sim	検討	機能追加	Simモデル拡張	他分野への拡大
	4   CityScope	機能改修	機能追加検討	再現sim	蓄積データ・KPIの可視化
<b>事業取組み</b>	合意形成 計画策定	行政計画 都市空間の再構築	各種計画の策定	各種計画の策定	各種計画の検証、見直し
	サービス	City Ride City Safe	実験準備 運行実験	実験準備 運行実験	既存運行路線への活用
			モデル地区での構築	他地域へ拡大	実装